

川根本町 図書室だより

11月

2023年11月号

- ・文化会館図書室(小長井)
 - ・山村開発センター図書室(上長尾)
 - ・移動図書館車やまびこ号:川根本町内7コース
- TEL: 0547-59-3106(文化会館)
TEL: 0547-56-2231(山村開発センター)

- ☆ 開室時間:午前9時～午後5時
- ☆ 休室日:月曜日・第3日曜日(19日)・祝日の翌日(4日・24日)
- ☆ やまびこ号巡回コースは



かわねフォン、町のホームページでご確認いただけます。
なお、年間予定表は図書室で配布しています。

新 着 図 書

『女子が一生食べていける仕事選び』

上田晶美 著 草思社

今後将来性のある仕事とは？

文



30年にわたり約2万人の求職活動を支援してきた、日本初のキャリアコンサルタントが、やりたいこと探しから、自己分析、キャリアプランの作り方、履歴書の書き方、面接の心得まで、「理想の仕事」に就くまでの全プロセスを丁寧に教えます。変化の激しいこれからの時代、どんな仕事に就けば、やりがいを持って、安定して働くことができるのか――。

『人の輪の中にスッと入れる話し方』

野口 敏 著 三笠書房

好かれる人は「幸せ光線」を出している

山



知らない人たちの集まりや新しい環境、すでにでき上がっている人間関係に入っていく時は、誰でもちょっと気が張るもの。そんなシチュエーションで役に立つ「コミュニケーションの極意」をお伝えしていきます。もう「人に話しかける時」に感じるためらいが、なくなります。

『温かいテクノロジー』

林要 著 ライツ社

22世紀への知的冒険

文

ロボットを開発することは、人間を知ることであった。世界初の家族型ロボット「LOVOT(らぼっと)」の開発者が、「温かいテクノロジー」と人類が共生する世界線について語る。



『記録 ミッドウェー海戦』

澤地久枝 著 筑摩書房

「彼らかく生き、かく戦えり」

山

太平洋戦争の転換点となったミッドウェー海戦。日本側3056名、アメリカ側362名の戦死者の生年、所属階級、家族構成などを7年もの歳月をかけて自力で突き止め、手紙やインタビューを通じて彼らと遺族の声を拾い上げた圧巻の記録。個人のいのちの重さに触れる第一級の資料。



文化会館図書室

身体を動かす



他多数

◎ 新着図書



川根本町
インターネット
図書室
ホームページ



図書だより
バックナンバー

新刊の詳細情報は、【川根本町図書ネット】で検索。
または、右記QRコードよりご確認ください。

文化会館図書室所蔵	山村開発センター図書室所蔵
<p>● 『ヨルノヒカリ』 畑野智美 著 中央公論新社 いとや手芸用品店を営む木綿子は、35歳になった今も恋人がいたことがない。住み込みで働くことになった28歳の光は、母親が家を出て以来“普通の生活”をしたことがない……。不器用な大人たちの“ままならなさ”を救う、ちいさな勇気と希望の物語。</p>	<p>● 『ドウルガーの島』 篠田節子 著 新潮社 大手ゼネコン勤務の加茂川一正は、インドネシアの小島で海底に聳え立つ仏塔を発見する。一正はこの遺跡の保護を自らの使命とし本格的な調査に乗り出す。次々と障壁が立ち塞がる。人間の欲望が女神の怒りに触れたとき、島に激震が走る。</p>
<p>● 『百鬼大乱』 真保裕一 著 講談社 応仁の乱に先駆けること13年、鎌倉公方が関東管領を殺害。血みどろの戦国時代が幕を開ける。命がけて公方を守る築田持助。上杉を支える太田道灌。両者の才知をつくした戦いを活写する歴史巨編。知られざる関東の戦国が今、明らかになる。</p>	<p>● 『首都襲撃』 高嶋哲夫 著 PHP研究所 夏目明日香は、一年前の官邸襲撃事件のトラウマを抱えつつも、総理付きSPとして復帰した。一方、総理の新崎は、欧米で立て続けに起きたテロ事件に対抗し、〈テロ撲滅世界会議〉を東京で開催すると宣言。しかしその結果、東京がテロの標的となることに……。</p>
<p>● 『蒼天の鳥』 三上幸四郎 著 講談社 鳥取出身の実在の作家・田中古代子をモデルに、友人の女流作家・尾崎翠や鳥取に流れてきた過激アナキスト集団「露亜党」、関東大震災など、大正期を鮮やかに描く歴史活劇ミステリー！</p>	<p>● 『わたしたちに翼はいらない』 寺地はるな 著 新潮社 シングルマザー、専業主婦、マンション管理会社勤務の独身、同じ地方都市に生まれ育ち現在もそこに暮らしている3人。いじめ、モラハラ夫、母親の支配。心の傷は恨みとなり、やがて……。「生きる」ために必要な救済と再生をもたらすまでのサスペンス。</p>
<p>● 『ヘルメス』 山田宗樹 著 中央公論新社 2029年に起きた小惑星衝突の危機。すんでのところで衝突は免れたものの人々の恐怖は拭いきれず、シェルター用の実験地底都市が建造された。被験者たちには終了時に巨額の報酬が約束されていたのだが……。</p>	<p>● 『青春をクビになって』 額賀滯 著 文藝春秋 瀬川朝彦、35歳。無給のポスト・ドクターとして古事記の研究に青春を賭してきたが、教授職など夢のまた夢。そんな折、ゼミ時代の先輩が大学の貴重な史料を持ったまま行方不明になってしまうという事件が……。</p>
<p>● 『さがしっこどうぶつ』 youmask 作 中央公論新社 ころころサイズの動物が、みっちりむぎゅっと集まった絵の中から、プリンやジュースになった動物やイースター・エッグになった動物をさがそう！</p>	<p>● 『たびにでよう』 降矢なな 作 童心社 「たびにでようたびにでようリュックをせおってあるいていこう」 そんなリズムカルな言葉から始まる、男の子と犬のふしぎな冒険物語</p>



『THE BEST ALBUM』 40th ANNIVERSARY～あの頃へ～ 35th ANNIVERSARY～メロディー～

安全地帯
玉置浩二



時代を越える音楽

たくさんの心にずっと響き続けている音楽がこの2つのアルバムにあります。
初めて聴いた曲は安全地帯の『ワインレッドの心』サウンドのカッコよさと切ない歌詞。
そして玉置浩二さんの圧倒的ボーカル力。当時、なにかに目覚めたようにそれから安全地帯を聴きまくりました。

音楽を聴くと、ふと思ひ浮かぶ景色はありませんか。その時、心に響いていたことを感じたり。
心地よいを感じる音色は自分を整えられます。ずっと聴いていたい曲。十八番の曲、
踊るリズム、泣き歌、元気になる歌・・・などなど。
皆様の心に響く音楽は何でしょう。お聞かせくださいませ。

これからもずっと愛され続けていく曲を最後に皆様にご送ります。
玉置浩二さんのソロ曲『メロディー』 きっと、心の歌が聞こえてきますよ。
愛と感謝を込めて～図書室スタッフN子(^^❤️ 中神)

文化会館所蔵

山村開発センター所蔵